

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

空知管内 岩見沢市立東小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・郷土に対する愛着や誇りを育むため、北海道アイヌ教育相談員・アイヌ文化活動アドバイザーを外部講師として招聘し、講話や体験学習を通してアイヌの人たちの歴史・文化等に触れ、事前・事後学習での探究的な学びに繋げる学習活動を展開しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を参考に、アイヌ語やアイヌ語が由来となった地名等について学習後、「着るもの」「食べるもの」「住むところ」「信仰」のテーマに分かれ、それぞれのグループで課題を設定しました。身近なところにアイヌ語が由来となっているものがあることを知り、アイヌの人たちの歴史・文化等について興味・関心を高めていくことができるよう取組を進めました。



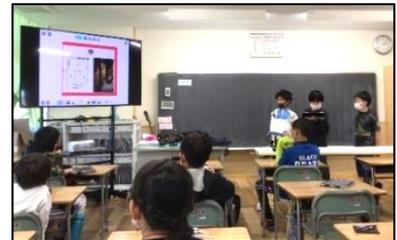
【踊りを鑑賞する様子】

(2) 情報の収集

ICTを活用しながらテーマごとの学習活動を進めました。単元の中盤で北海道アイヌ民族民族財団の方やアイヌ教育相談員の方の講話を聞き、実際に踊りや楽器の演奏を体感する時間を設定しました。また、アイヌの人たちが使用している道具に触れ、自然との調和や儀式の意味など、児童の興味を引く体験的な学習を行いました。児童からは、「輪踊りを一緒にやってみて、わたしたちがするような踊りに似ている。」との感想があり、アイヌの人たちの生活が自分たちの身近なものとなることを実感する様子が見られました。

(3) 整理・分析

調べてきたことや講話・体験学習で学んだことをもとに、選択したテーマ別に分かれ、グループごとに、「ロイロノート」を活用してスライドを作成し、まとめの発表準備を行いました。



【学習成果の発表の様子】

(4) まとめ、表現

まとめとして、グループごとに学習成果の発表を作成したスライドを使って行いました。今後は、アイヌの人たちの文化・習慣について調べるなど一層の広がりをもたせ、次年度は、成果を表現する場として「アイヌまつり」を開催する計画を進めています。

②児童の感想等

- ・アイヌの人たちは神のめぐみを受けていること、全てのものに神が宿っていることが分かりました。
- ・鮭の皮で靴を作って、靴底についた鮭のヒレがすべり止めになるという発想がすごいと思いました。
- ・アイヌの人たちの弓矢や魚を捕る道具を自分も体験してみたいと思いました。
- ・アイヌの人たちが教えに来てくれたので、もっとアイヌ文化について、知りたいと思うようになりました。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 学習を進めていく中で、講師の方々から実際に、踊りや楽器の演奏を見せていただき、アイヌの人たちの暮らしやこれまでの歴史について、児童の興味・関心の高まりにつながりました。
- 「今、住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」という質問項目で肯定的な回答をした児童の割合が 71.2%から 82.3%、「アイヌの人たちの歴史や文化についてもっと調べたいと思う」という質問項目で肯定的な回答をした児童の割合が 53.4%から 73.3%にそれぞれ増加するなど、児童の郷土に対する愛着の高まりにつながることができました。
- アイヌの人たちについての学習を通して、発展的に地域の歴史や文化に興味・関心を広げていくことで、より一層、郷土に対する愛着や誇りを育くむことができるよう、児童が、より主体的に取り組み、具体的に課題を設定して追究できるような学習計画を立てる必要があります。